

●●● 和辻哲郎文庫

「和辻倫理学」として知られる独自の思想体系を築いた和辻哲郎(1889-1960)の旧蔵書です。和辻と聞いてピンとこない人も、『古寺巡礼』(1919)の著者といったら分かるでしょうか。かつて法政大学文学部哲学科で教鞭をとったこともある和辻の没後、その夫人照の意志によって、友人で法政大学文学部哲学科教授谷川徹三(後に総長、詩人・谷川俊太郎の父)を介して、一括して寄贈されました。

和・洋併せて5,000冊におよぶその蔵書には、随所に疑問や論評などの書き込みが見られ、それらを通して、宗教や古典文学、芸能、風土など多岐にわたる広い視野から日本人の精神史を捉えた和辻の思考、研究の跡がたどれる点が何よりも貴重です。



『カント全集』に挟まれていた和辻自筆メモ

●●● 三木清文庫

本学の教授を務め、治安維持法違反の嫌疑を掛けられて獄中で非業の死を遂げた哲学者三木清(1897-1945)の旧蔵書8,000余冊です。人生の諸要素を考える手がかりとして今も広く読み継がれる『人生論ノート』で知る人も多いでしょう。京都で西田幾多郎に、ドイツでハイデggerに学んだ三木の膨大な蔵書は、その半数近くが洋書で、当時のドイツ哲学文献の宝庫です。三木の没後、遺族に守られていたものを1950年に本学図書館が購入しました。

本学多摩図書館には、三木と同じく西田門下で、三木の跡を継いで本学教授を務めた戸坂潤(1900-1945)の旧蔵書約1,500冊も収められています。



三木清旧蔵書



法政大学図書館編,1991,『法政大学所蔵文庫案内』法政大学



牧野英二,2010,『増補・和辻哲郎の書き込みを見よ! 和辻倫理学の今日的意義』法政大学出版局

野上記念法政大学能楽研究所

能楽といえば、日本を代表する伝統芸能。2001年には、日本の伝統芸能としては初めてユネスコの世界無形文化遺産に登録され、いまや日本ばかりではなく、人類が共有すべき「無形遺産の傑作」として注目を集めています。

この能楽の研究で世界中に知られているのが、ポアソナード・タワー 23階にある野上記念法政大学能楽研究所です。本学の元総長・野上豊一郎博士を記念して1952年に創設されたこの研究所は、能楽を専門とする研究機関として、長い歴史と実績を誇り、世界の能楽研究の一大拠点となっています。

ここには能楽の歴史を伝える数多くの貴重な資料が保管され、いまでもその整理と研究が続けられています。

①金春禅鳳筆謡本

能のテキストを「謡本」といいます。能の文章(詞章)は、舞などの演技を伴わない「謡」という形式でも楽しまれていました。研究所には室町時代から現在までの謡本が、数多く所蔵されています。



②『信長朱印状』

有名な「天下布武」の印がある織田信長の朱印状。観世彦右衛門という能役者に信長が領地を認める、という内容です。能は時の権力者の後援を受けて大きく発展しましたが、研究所には、そうした能の歴史に関わる資料も数多く所蔵されています。

①



②

③新作能「草枕」

能楽研究所は能楽界と協力し、今は上演されなくなってしまった古い能の復活や、能の技法を用いたまったく新しい作品の上演などもおこなってきました。写真の「草枕」は、夏目漱石の小説や詩を素材にし、2002年に初演された新作能です。



③



④

④『風姿花伝』

世阿弥の最も代表的な著作で、「花」という言葉をキーワードに、能役者が心得るべき演技の心構えを記した理論書です。役者による演技論としては世界で最も古いものですが、実際の舞台経験に基づいた高度な内容は、今も高く評価されています。

⑤『二曲三体人形図』

研究所には、能をどう演じるべきか、理論や実際上の注意を記した「伝書」類も数多く集められています。これは、能の大成者世阿弥が能の演技を絵入りで説明した伝書です。世阿弥時代の能の姿を教えてくれる貴重な資料です。



⑤

URL	http://nohken.ws.hosei.ac.jp/
所在地	市ヶ谷キャンパス ポアソナード・タワー 23階
利用可能時間	火・木 9:30～20:00 / 金 9:30～16:30(11:30～12:30の昼休みは閉室) (夏季・冬季休暇期間・年末年始・入試期間・年度末・授業期間外は除く)

大原社会問題研究所

大原社会問題研究所は1919年2月9日、岡山県倉敷の実業家・大原孫三郎によって大阪天王寺に創立されました。社会科学系の民間研究所としては日本で最も長い歴史を有しています。大原氏は倉敷紡績などの事業を営むかたわら大原美術館、倉敷労働科学研究所などを設立した異色の実業家です。彼は岡山孤児院の創設者・石井十次の事業を経済的に支え、その死後は石井記念愛染園を大阪に設けて貧困児童を対象とする夜学校を経営するなど、社会事業にも熱心な人物でした。しかし慈善事業の結果に失望し、社会問題の解決にはその根本的な調査・研究が必要であると考え、研究所の創設を決意しました。

研究所の初代所長には東京帝国大学経済学部教授高野岩三郎が就任し、彼の下に櫛田民蔵、権田保之助、森戸辰男、大内兵衛、久留間鮫造、宇野弘蔵、笠信太郎らのすぐれた研究者が集まりました。研究所はまた、大



大原孫三郎



高野岩三郎